

2022年10月入学及び2023年4月入学
広島大学大学院先進理工系科学研究科（博士課程前期）入学試験問題

物理学プログラム
量子物質科学プログラム（物理学分野）

専門科目

2022年8月25日 9:00～12:00

注意事項

- (1) 以下の用紙が配付されている。

問題用紙（表紙を含む）	5枚
解答用紙	4枚
下書き用紙	1枚
- (2) 問題は全部で4問あり，[1]～[4]の問題番号および出題科目名を に示してある。
- (3) これらすべてについて解答せよ。
- (4) 解答は問題ごとに指定の用紙を用いること。解答方法が特に指定されている場合を除き，最終的な答えだけでなく，解答に至った考え方や途中計算も示せ。紙面が不足した場合は表面に「裏面に続く」と明記し，裏面に記入せよ。
- (5) 解答用紙および下書き用紙のすべてに受験番号を記入せよ。
- (6) 試験終了後，すべての解答用紙および下書き用紙を提出せよ。

[1] 力学

1. ばね定数 k のばねが、滑らかで水平な床に置かれ、片側は壁に固定されており、もう片方に質量 m の質点を取り付けられている。空気から質点には速度に比例した抵抗が働くものとし、その比例係数を c とする。ばねに平行に座標 x をとり、ばねが自然長の時の質点の位置を原点とし、壁と逆側の向きを正の方向とする。壁に垂直な方向の質点の運動のみ考えることとして、以下の問いに答えよ。

- (1) この系の運動方程式を立てよ。
- (2) $c^2 < 4mk$ のとき、運動方程式の一般解を求め、どのような運動をするのか図を用いて説明せよ。
- (3) $c^2 > 4mk$ のとき、運動方程式の一般解を求め、どのような運動をするのか図を用いて説明せよ。

2. 図1のように3つの質点と3つのばねと1つの棒が組み合わされて構成され、壁に取り付けられて水平な台に置かれた系を考える。すべての質点の質量を m 、すべてのばねのばね定数を k とする。また、棒の長さを $2a$ とし、1つのばねは棒の中心の場所に取り付けられているものとする。棒は伸び縮みせず、たわまないものとし、棒の質量は無視できるものとする。台の表面は滑らかであるとする。それぞれの質点の座標を x_1, x_2, x_3 とし、ばねが自然長の時の質点の位置を原点とし、壁と逆側の向きを正の方向とする。この系の質点の振動モードについて以下の問いに答えよ。ただし、質点の振動の振幅は小さいものとし、壁に垂直な運動のみ考えるものとし、壁に平行な方向の運動は微小なものとして無視する。空気からの抵抗も考えない ($c = 0$) ものとする。

- (1) この系のラグランジアンを求めよ。
- (2) 上で求めたラグランジアンより、この系の運動方程式を導出せよ。
- (3) この系の固有振動モードの1つは、棒の中心が静止した状態で、棒の両端が逆位相で振動するものである。棒の中心の周りに関する回転の運動方程式を導出し、その角振動数が $\omega_1 = \sqrt{\frac{k}{m}}$ であることを示せ。問2の(2)で求めた式を利用して良い。
- (4) この系の固有角振動数について、 ω_1 以外の2つを求めよ。
- (5) この系の固有振動モードは3種類ある。それらを図を用いて説明せよ。

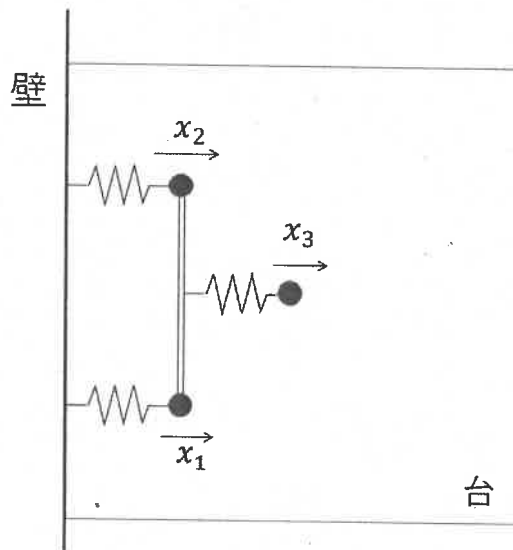


図1

[2]

電磁気学

1 回巻きの円形コイルに流れる電流によって生じる磁場について以下の問いに答えよ。

- (1) 真空中に置かれた半径 R の円形コイルに流れる定常電流 I によって発生する磁束密度 \vec{B} について考える。図 1 のようにコイルは xy 平面にあり、 z 軸はコイルの中心 C を通るとする。この時、長さ dl のコイルの微小断片によって、 C から a 離れた z 軸上の点 A に生ずる磁束密度 $d\vec{B}_1$ の z 軸成分の大きさを示せ。ただし真空の透磁率を μ_0 とする。また、電流 I の微小導線部分 $d\vec{l}$ により、 \vec{r} だけ離れた位置に生ずる磁束密度 $d\vec{B}$ は次式で表せる。

$$d\vec{B} = \frac{\mu_0 I d\vec{l} \times \vec{r}}{4\pi r^3}$$

- (2) コイル全体から点 A に生ずる磁束密度 \vec{B}_2 の大きさを求めよ。
- (3) 次に、この半径 R の円形コイル 2 つを R だけ離れて平行に置いた場合を考える。図 2 のように 2 つの電流の向きは同じで大きさも同じ I であり、2 つのコイルの中心は z 軸上に存在している。この時、2 つのコイルから等距離にある z 軸上の点 O での磁束密度 \vec{B}_3 の大きさを求めよ。
- (4) 図 2 の装置を用いることで、点 O において地磁気の影響がない実験環境を作ることができる。コイルの半径は $R = 0.10 \text{ m}$ とする。真空の透磁率 $\mu_0 = 1.257 \times 10^{-6} \text{ N/A}^2$ 、地磁気を $5.028 \times 10^{-5} (= 1.257 \times 4 \times 10^{-5}) \text{ T}$ とし、点 O でこの地磁気を打ち消すのに必要な電流値を有効数字 2 桁で求めよ。ただし、 $\sqrt{5} \approx 2.236$ とする。
- (5) この装置で発生した磁束密度は点 O 付近でほとんど一緒になるという特徴を持つため、問(4)に示すような実験環境を容易に作ることができる。そこで、点 O から z 軸上を z だけわずかに離れた点 Z ($|z| \ll R$) について考える。この点 Z での磁束密度 \vec{B}_4 の z 成分を z の関数として表し、点 O 付近で磁束密度の変化が小さいことを説明せよ。

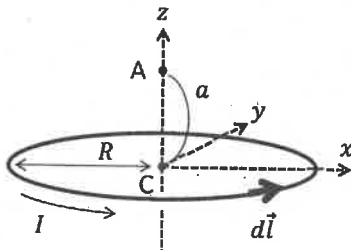


図1

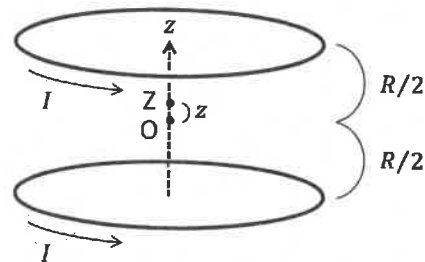


図2

子の物理を考える。xy面内のポテンシャルエネルギー
が印加されているものとする。このとき以下の
質量を m とする。プランク定数を 2π で割った量を \hbar とする。
周期的境界条件が存在するものとする。ここでは、

磁束密度ベクトルを求めよ。

この系の電子に関する、時間に依存しないシュレ
ンジャーとスカラーポテンシャルが存在するときの
シュレインジャー方程式は、

$$\left\{ \begin{array}{l} \nabla_x^2 + \nabla_y^2 - eV(x,y) \end{array} \right\} \Psi(x,y) = E\Psi(x,y)$$

ここで、 ∇_x^2 は x 成分、 ∇_y^2 は y 成分である。また、 $V(x,y)$ はスカラーポテン

シャルであるとき、 $\phi(x)$ に関する方程式を求めよ。また、ここ

で、シュレインジャー方程式と同型であることに注意し、振動の

関数は $\exp(i\phi(x))$ である。ここで、 $\Psi(x,y)$ の規格化を考えることで
は x に依存しない変数である。

を用いて表せ。

固有値を \hbar , e , B , m を用いて表せ。

[4] 熱統計力学

以下の問いに答えよ。

- (1) エンタルピー H は内部エネルギー U , 圧力 p , 体積 V を用いて, $H=U+pV$ と表わされる。この式と熱力学第1法則および比熱の定義式から, 定圧比熱 C_p , エンタルピー, 温度 T , 圧力の間に $C_p = \left(\frac{\partial H}{\partial T}\right)_p$ が成り立つことを示せ。
- (2) ある閉じた系の内部エネルギーの微小変化 dU は, エントロピー S と体積 V の微小変化 dS, dV を用いて, $dU = TdS - pdV$ と表される。この関係式を用いて, エントロピー S とエンタルピー H の間に, 下記の2つの関係式が成り立つことを示せ。

$$\left(\frac{\partial S}{\partial T}\right)_p = \frac{1}{T} \left(\frac{\partial H}{\partial T}\right)_p$$

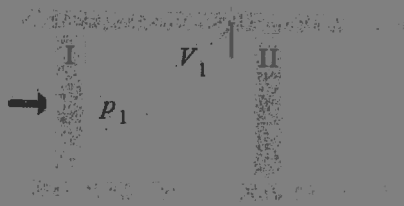
$$\left(\frac{\partial S}{\partial p}\right)_T = \frac{1}{T} \left(\frac{\partial H}{\partial p}\right)_T - \frac{V}{T}$$

- (3) 問(2)の関係式を用いて, 下記の関係式が成り立つことを示せ。

$$\left(\frac{\partial H}{\partial p}\right)_T = -T \left(\frac{\partial V}{\partial T}\right)_p + V$$

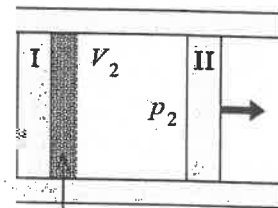
- (4) エンタルピーが保存される場合について, $\left(\frac{\partial T}{\partial p}\right)_H$ を $T, V, C_p, \left(\frac{\partial V}{\partial T}\right)_p$ で表せ。

下図のように, 断熱壁で作られたシリンダーの中央部に綿などでできた多孔質栓を固定して, 断熱材で作られたピストン I, II を用いて左側から右側にゆっくり気体を押し出したとき, 押し出される前と後の気体の温度がどのように変化するかを調べる実験を考える。最初に図 1 のように, ピストン I で多孔質栓より左側に体積 V_1 の気体を閉じ込め, ピストン II は多孔質栓の右側に密着している。この状態から, ピストン I, II にかかる圧力 $p_1, p_2 (p_1 > p_2)$ を一定に保ちながらゆっくりそれぞれのピストンを動かし, 最後に図 2 のように, ピストン I を多孔質栓に密着するまで動かしたとする。その時, 多孔質栓の右側部分に押し出された気体の体積は V_2 となった。この過程について, 以下の問いに答えよ。ただし, 多孔質栓の体積は無視できるとする。



多孔質栓

図 1



多孔質栓

図 2

- (5) この過程でエンタルピーが保存されることを示せ。
- (6) 問(4)の結果を用いて, 気体が理想気体の場合, 押し出される前後で気体の温度は変化しないことを示せ。